

自然派くらぶ

ぼらーの5

May
2019
No.413



- 虹の会 シャープラニール支援報告会
- 貧困はどこから生まれるの?
- 商品委員会主催 公開講座「石けんはスゴい!」
- 自然派ママくらぶ 傾聴・タッピングタッチ講座 & 畑活動報告

2月15日 シャプラニール支援報告会

少女たちの夢に 寄り添って



働く少女たちに教育機会を
バンガラデシュには家事使用者として安い賃金で働く少女が30万人から40万人いると言われています。雇い主側

少女達は支援センターへ通じています。
自然派くらぶ生協の組合員組織「虹の会」では、「できることから」を合言葉に募金等を通して海外支援を行っています。支援先のひとつである「シャプラニール」市民による海外協力の会の事務局長 小松豊明さんにお話を伺いました。

織「虹の会」では、「できることから」を合言葉に募金等を通して海外支援を行っています。支援先のひとつである「シャプラニール」市長 小松豊明さんにお話を伺いました。

が「貧しい子どもを雇つてあげている」という考え方のため、社会問題として認識されてしません。彼女達は本来受けるべき教育を受けられず、基本的な読み書きができないばかりか、生きるために必要な衛生面や栄養面などの知識も得られないままにいます。

自然派くらぶ生協の組合員組織「虹の会」では、「できることから」を合言葉に募金等を通して海外支援を行っています。支援先のひとつである「シャプラニール」市長 小松豊明さんにお話を伺いました。



支援センターでは、基本的な読み書きの他、音楽や絵、保健衛生、調理・裁縫等を習得することができます。

シャプラニールは少女達の教育の機会を取り戻すために支援センターを運営し、基本的な知識が得られるように支援しています。

徐々にこの活動が認められ、自治会の中に家事使用人担当窓口ができました。自治会の役員と一緒に雇い主のところへ行くと効果的な話し合いでできるようになり、支援センターへ通う少女が少しずつ増えてきました。

徐々にこの活動が認められ、自治会の中に家事使用人担当窓口ができました。自治会の役員と一緒に雇い主のところへ行くと効果的な話し合いでできるようになり、支援センターへ通う少女が少しずつ増えてきました。

徐々にこの活動が認められ、自治会の中に家事使用人担当窓口ができました。自治会の役員と一緒に雇い主のところへ行くと効果的な話し合いでできるようになり、支援センターへ通う少女が少しずつ増えてきました。

シャプラニールは少女達の教育の機会を取り戻すために支援センターを運営し、基本的な知識が得られるように支援しています。



小松さんが持っているのは現地の女性による美しい刺繍のポーチ。フェアトレードを通して現地生産者を支援しています。

(理事 田代知子)

* この間の業務報告

* 3月末までの加入
1,098人、
脱退747人

* 3月品群別受注概況
* 組合員拡大報告

四、業務報告

* 2月次決算報告

三、組合員活動報告

* 2019年度自然派くらぶ

祭り開催についての意見
交換

* 第45回通常総代会議案提
案について

二、討議事項

* 中期計画策定に向けた課
題と今後の進め方

一、一般報告

* システム導入に関する報告
* 中期計画策定に向けた理
事の学習交流会

理事会（第10回）

日時 4月1日10時より
場所 自然派くらぶ生協会議室

出席 理事11名 監事3名

どこから生まれるの？

貧

困

は

**貧困は
資本主義経済の必然だから**

自然派くらぶ生協がフードバンク八王子えがおのフードドライブに協力するようになつて一年が経ちました。大変多くの組合員さんから累計26229点もの食品を寄贈していただき、また、募金も124600円にのぼりました（6面参照）。

一周年を機に、理事長の佐野さんからは実際の支援についてお話をいただきました。

相対的貧困の奥にあるもの

ムや修学旅行を諦めたりすることもあるようです。

高度経済成長を経て豊かになつた日本。この社会において「普通」と呼ばれるレベルの暮らしをできない人々がいます。貧困線（27年度データでは122万円）以下で暮らす世帯は約15%ですから、およそ1900万人。この中で子どもの数は280万人と言われています。子ども全体の約7人に1人、35人学級なら5人です。生きるか死ぬか、というレベルかと言えばそうではありません。でも、卒業アルバ

きません。

佐野さんが講演の中で参考図書として示された「貧困の中でおとなになる」には次のように書かれていました。

『そこにあつたのは、お金がないから欲しいものや必要なものが手に入らない不便さではなく、お金が無いことから始まる孤立、あらゆる情報からの疎外、学業不振、学力の遅れを立て直せない環境、夢をもたないという自己防衛、

ドバンク八王子えがお。佐野さんは「いつの日かフードバンクが無くとも済む社会になつてほしい。その日が来るまで、誰もが人間らしく暮らせる地域社会作りのパートナーとして歩みたい」と締め

だ、という人もいます。でも本当にそうでしょうか？もし突然、病気やケガで働けなくなつたら…？

そんな時のために社会保障制度があるのですが、今、それがうまく機能しているとは言えないといいます。生活保護を例に取れば、その必要者の20%ほどしか利用していないとのこと。その背景には屈辱意識や自己責任論などがあります。また、既に疲れ切っている状態では、どうやって社会保障にアクセスしたら良いのか、考える気力を無くしてしまつっていても不思議ではありません。

資本主義経済の中で所得格差が生まれるのは必然的なことです。でも、だからこそ社会保障があるのです。増える一方の税負担の中で、私たちひとりひとりにとって重要な社会の仕組みをどのようにしていくか、考え、行動するところがますます重要になつていてしまつても不思議ではありません。

八王子えがおによる食品支援の状況 (重量は月平均)	
①個人・家庭へ直接	170 kg
②生活自立支援課経由	40 kg
③子ども食堂	30 kg
④児童・高齢者の施設	17 kg
⑤無料の塾	50 kg
⑥子ども応援プロジェクト 夏休み 33 世帯・冬休み 39 世帯	



理事長の佐野さん（左）と事務局長の三浦さん。

事務局長の三浦さんは支援の様子についてお話をくださいました。八王子えがおに個人から連絡があつた場合には直接お会いして状況を確かめた上で支援しているとのことです。もちろん行政にもつなげます。八王子市生活自立支援課には毎月100人以上が相談に来るので、市からの要請で支援することも多いそうです。

これまで支援した方の事例からは、決して個人の責任とは言えない現実が伺い知れました。ワーキングプアや健康不安、DV、教育費捻出の難しさなど、私たちのすぐ近くにいるであろう方々の困窮が身に迫りました。

救われたのは支援を受けた方々からのメッセージ。「仕事をへとへとになつた時、援助して下さる方を思い出して、また頑張ろうと思います」。この言葉を聞けば私たちも力がわいてきますね！小さな思いやりが明日を作ります。

商品委員会主催

「自然派くらぶ石けんプロジェクト」公開講座

太陽油脂さんに教わる楽しい石けんライフ

石けんはスゴい！



商品委員会は石けんを見直して環境にやさしい暮らしを目指しています。その活動の一環としてパックスナチュロンでおなじみの太陽油脂株式会社による公開講座を八王子で開催しました。

新年度が始まった4月4日、春休み中の子どもたちも参加し、実験やワークショップなどで楽しく石けんについて学びました。

この日の参加者は大人20名、子ども14名で春休み中とあつて会場は大賑わい。太陽油脂からは藤澤さんと柴田さん、そして佐久間さんの3名が講師として参加されました。

石けんのはなし



まず実験やワークショップの前に石けんについての講義です。

石けんが誕生したのは紀元前3千年の古代ローマ時代。偶然にも羊を焼いた油と木灰（アルカリ成分）が混ざり、汚れを落とす不思議な土ができたとか。それから5千年、いまや石けんは私たちの生活に欠かすことのできないものとなっています。

石けんは植物の実や種から採取した油脂とアルカリ成分を混ぜ、加熱すると簡単に作ることができます。石油を原料とし、化学合成によつて作られる合成洗剤と違い自然界にある原料だけで作られています。



ただ今講義中

石けんの性質を体感



さて、次に実験に移ります。藤澤さんが太陽油脂の台所とまるで豆腐のように固まりました。石けんにお酢を入れて混ぜると、お酢の酸が混ざって中和され元の油に戻ったということでした。こうした現象は合成洗

「これを見て注意してほしいのは食器を洗う時」と、藤澤さん。少しでもお皿に酸性の物が残つていると、この現象が起きて洗つているうちに油に戻つてヌルヌルしてしまうことがあるそうです。洗濯時にも注意が必要。人の汗は酸性なので、石けんと反応して思わず黄ばみになつてしまつことが。「食器も衣類も出来るだけ拭き取つたり、予洗いしてから石鹼を使うようになります。だからこれは防げます」と、説得力のある藤澤さんの言葉に、参加者は納得していました。



石けんは食べられる？

続いては講義に出てきた「カルシウム石けん」を作る実験。海水の濃度と同じくらいの塩水を作り、そこに石けんを入れます。かき混ぜて溶かしていくうちに何やら半透明のふわふわた塊が。これがカルシウム石けん。「クラゲみたい」「スライムだ」と、子どもたちは面白がりながら素直な感想。



太陽油脂株式会社
藤澤さん 佐久間さん 柴田さん



これらの2つの実験から、石けんは使う時には酸性の物と混ざらないように注意が必要ですが、排水された後には、魚や微生物の餌となつて自然に還るということがわかりました。

「石けんは環境の循環の輪の中にいます」と言う藤澤さんの言葉と実験をワクワクしながら見る子ども達が印象的でした。

子ども達の未来のために、

石けん一個から考えてみようと思える講座となりました。

大人の感想

- ・河川にとって石けんが良いということが良くわかりました。使用する石けんを少しずつ増やせていけたらなと思います。（Sさん）
- ・子どもに石けんの良さを伝えたくて参加しました。上手に使いこなす方法も知ることができてよかったです。（Mさん）
- ・石けんは人間にも環境にも優しいのでもっと日本でも広がればよいと思いました。子どもも大人も楽しめる講座ありがとうございました。（Wさん）
- ・実験を目の当たりにするととても理解が深まりました。石けんが自然にかえる理由もわかりました。（Tさん）

子どもの感想

- ・とても勉強なりました。色々な油から石けんができるのはすごいです。（Tさん）
- ・石けんづくりのしかったです。またやりたいと思いました。じっけんもおもしろくて楽しかったです。（Fさん）
- ・色んな内ようの説明が聞けて勉強になりました。今回の実験を夏休みにしてみたいです。（Tくん）

石けんを作ろう！



講座の最後はワークショップ。好きな香りと飾りをつけて世界でひとつだけの石けんを作りました。



大人も子どもも夢中で楽しめました。

どうぞお楽しみに！

商品委員会では「自然派くらぶ石けんプロジェクト」と題し、オリジナル石けん作りに取り組んで来ましたが遂に完成しました。6月の総代会にてお披露目し、6月4回に供給予定です。
商品委員の思いがギュッとつまつた自然派くらぶオリジナル石けんです。



(多摩市 田島 薫さん)

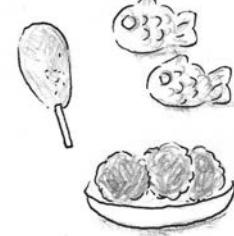
●高橋徳治商店のおとうふ揚げ、おいしいです。冷凍なので、何もない時便利です。

(立川市 原田 佳世さん)

●いつもぽらーのを楽しく興味深く読ませていただいております。今回の「里山で落ち葉掃きと温床作り」で心温まりました。私は八王子生まれで、今でも実家の母の世話のために通つておりますが、車で道々通ることに、八王子の雑木林が壊されつつあるのを悲しく思っています。ここではしっかりと組合員さんと中西さんが守ってくれている。本当に感謝です。これからもうろしくお願ひします。

(多摩市 田島 薫さん)

(ぼ)ご夫婦で社会のことが題にのぼるのは素敵なことですね。今号の「貧困はどこから生まれるの?」や「少女たちの夢に寄り添つて」について、ぜひ話し合つてみてください。



(相模原市 高橋 順子さん)

●いつもお便りを読んでいます。今日は「低賃金でも無職よりは良いんじゃない?」と言われました。どうなかな?と考えさせられました。

(武藏野市 露崎 奈津子さん)

(ぼ)ニッコーさんほど、シンプルな材料(むしろ家庭で作るよりもあれこれ使つていないかも?)の冷凍食品を見たことがなく、何を買つてもハズレがなくて大ファンです!

(日野市 西山 雅子さん)

●今回久しぶりにマリーレンのクッキーが載つていたので嬉しくて即注文。娘たちが小学生の頃、いつも「また買つて」と言われてよく注文して食べていました。成人した娘たち、今も大好きです。

●3・11から8年。福島によりそつていける活動をこれからもよろしくお願ひします。
(八王子市 木全 由規さん)



寄せられた お便り



フードバンクへのご協力ありがとうございました。

昨年より「食に困っている人を支えよう」と地域の支え合い活動の一環として始めたフードバンク支援が1年を迎えました。組合員の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

支援実績

- * 食品寄付(2018年3月～2019年3月)

組合員から	…	2379点 (868kg)
生協から	…	250点 (63kg)
- * 子ども応援プロジェクト募金 124,600円
(1口200円を623口)

寄付いただいた食品、募金はNPO法人フードバンク八王子えがおにお渡ししています。



今後もフードバンクに取り組んで参りますので、引き続きご協力の程よろしくお願ひ致します。



貧困の実態とフードバンク八王子えがおの活動については3面「貧困はどこから生まれるの?」で特集しています。



自然派ママくらぶ

傾聴・タッピングタッチ講座

子どもの成長とともに親子の会話やコミュニケーションの取り方に難しさを感じることはありますか? 2月22日のママくらぶは心と心がつながるコミュニケーション術について学び合いました。講師は生協サポートの前田満寿美さんです。

この講座は、前田さんの自然派レッスンを受講した理事が「子育て中のママ向けにぜひ!」と依頼して実現しました。

最初はクレヨンを使って「心の天気」というテーマで絵を描きました。同じ題で描いた絵でも、各々違うことに気が付きます。感じ方、考え、気持ちは人それぞれだということを学びました。

ママ達の反響が一番大きかったのは2人組で傾聴の大切さを体感するワーク。最初は一生懸命話す話し手に対して、聴き手は関心のない演技をします。これは悪い聴き方。話し手は空しい気持ちになります。「子どもにもこんな思いをさせていたのかしら」という声も上がっていました。

次は良い聴き手役。視線を合わせて相槌を打ち、相手の気持ちに寄り添い傾聴するのです。「聞いてもらえていると思うと、話したくなるのですね」と参加者が言うと、前田さんはすかさず「お子さんも同じですよ」。ママ達は「今日から子どもの話を聞く時は傾聴ね」と心に留めました。

♥ 感想 ♥

○傾聴の講座を受講するのは初めてでしたが、良い聴き方とは何かを考えさせられました。普段は気にしない自分の心の動きや反応を探るのは楽しかったです。 (Aさん)

○タッピングタッチは予想以上に気持ちが良かったです。軽く触れられただけなのに、身体だけでなく心も柔らかくほぐれてゆったりした気持ちになりました。 (Nさん)

最後は再び2人組で、ゆつたりとした音楽に乗せて*タッピングタッチを行いました。「トン、トン、トーン」と先生の優しい声が心に染みます。心も身体もリラックスできました。実りの多かつたこの講座、参加者からは「第2弾をぜひ!」という声が多数聞こえました。

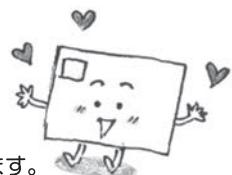


生協サポート講師
前田満寿美さん

*x き り と り せ ん



ぽらーのレター



「ぽらーの」へのご意見・ご感想、ご提案、オススメ料理など、お寄せください。
なお、お便りは、本誌の他、ホームページ・商品カタログ等に掲載させていただく場合があります。

ご記入は濃い鉛筆かボールペンでお願いいたします。

クイズの答え

名 前

組合員
コード (6ケタ)

住 所 () 市 区 () 町

4月の日録

- 1日(月) 理事会
- 2日(火) 食と農をつなぐ会 畑活動
- 4日(木) 商品委員会主催公開講座
「石けんはスゴい！」
- 5日(金) 水田トラストの会 打合せ
- 11日(木) 虹の会 定例会
- 16日(火) 食と農をつなぐ会
豆腐作り
- 19日(金) 理事会
- 23日(火) 商品委員会 ニッコー見学
食と農をつなぐ会 畑活動
- 26日(金) 自然派ママくらぶ 畑活動

5月の商品委員会

28日(火)
総括会議

今回の傍聴はありません。



当選者の発表

応募総数 19通

答え
先月のクイズ
「① タケノコのどの部分を食べている?
茎」

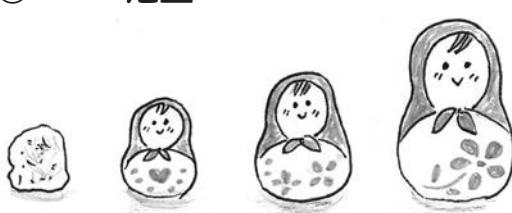
● ● ●
小田藤
笠原制田

由聰玲
紀子子子
様様

(八王子市)(三鷹市)
市市

自然派ママくらぶの会員は今年も
ジャガイモを植えました。
次のお酒のうち、原料にジャガイモが
使われるのはどれでしょう。

- ① ウオッカ
- ② ワイン
- ③ シードル
- ④ 泡盛



親子でほのぼの畑作業

3月29日(金)、春のぽかぽか陽気から季節が逆戻りしたように寒い日でした。この日は2019年度のママくらぶ始動の日。新メンバーと一緒に畑でジャガイモの植え付けと野菜の種蒔きを行いました。

まず中西さんがふかふかに耕してくださった畑に畝を作る作業。ママ達が順番に鍬を使ってみました。「もっと腰を低くしてね」中西さんが笑顔で見守り、声を掛けてくれます。「見るのとやるのは大違いね!」との言葉に一同、大笑い。



畑を貸してくださっている中西さんが忙しい中、指導に来てくださいました。



今年初挑戦のレタス。小さなマスに2~3個の種を蒔きます。

きりとりせん

畝が出来たら、そこに3種類のジャガイモの種芋を定植し、ちぢみ菜、寄居かぶ、大葉春菊など5種類の野菜の種を蒔きました。ふかふかの土の上を走り回っていた子どもたちもお手伝い。小さな手で種を一生懸命つまんで蒔きました。「春菊の種は発芽率が悪いから厚く蒔いてね」。中西さんのアドバイスはいつも的確。今年も頼りにさせていただきます!

最後に育苗トレーにレタスの種を蒔いて終了。6月頃の収穫が楽しみです。



応募要領

この裏面(7面下段)にクイズの答えと必要事項を記載の上、注文用紙と一緒に配送便にのせていただきください。〆切は5月24日(金)必着

プレゼント

正解者の中から抽選で3名様に商品利用券(500円)。